

市立奈良病院新改革プラン点検・評価事項（平成28年度）

平成30年3月

奈良市

○ 市立奈良病院新改革プランの実施状況について

収支の状況については、経常収支比率が、平成27年度までは100%を超え、経常収益が経常費用を上回っている状況が続いており、比較的安定的な経営状況であるといえるが、平成28年度は、経常損失になり、経常収支比率は99.5%となった。医業収支比率については、平成28年度が94.4%であり、前年度までと比較して、やや悪化した。通常は100%以上が求められるが、公立病院という性質上、達成が難しいのが現状である。

補助金・負担金等については、国・県の補助金が平成25年度から平成28年度の平均139百万円、市の補助金・負担金等が同平均390百万円である。長期前受金戻入益の同平均は40百万円である。これらの合計は569百万円であり、経常損益の同平均(123百万円)の4.63倍相当となっている。公立病院の使命として、採算が難しい医療を担っているため、補助金等は必要不可欠であると思われるが、補助金・負担金等に依存している状況である。

財政状態については、短期的な安定性の指標である流動比率、当座比率の平成25年度から平成28年度の平均が、それぞれ122%、118%であり、必ずしも安定的とは言えないが、毎月の現金収入が確実であるため、資金ショートリスクは小さいといえる。

医薬品費、材料費の対医業収益に対する比率については、平成27年度、平成28年度と増加傾向にあり、これは医療の発展により、費用が増加傾向にあることによるものと考えられるが、類似団体(一般病院の300床以上400床未満)平均と比較しても高い。医薬品費、材料費は費用全体に対する割合が高いため、調達方法等の工夫を図っていく必要がある。

○ 医療機能等指標に係る数値目標

	平成27年度実績	平成28年度目標①	平成28年度実績②	差(②-①)
救急車搬送数(人)	3,938	4,000	4,186	186
時間外患者数(人)	6,312	6,400	6,056	-344
手術件数(件)	4,612	4,700	4,404	-296
患者満足度(%)	92.5	93.0	91.3	-1.7

○ 経営指標に係る数値目標

	平成27年度実績	平成28年度目標①	平成28年度実績②	差(②-①)
経常収支比率(%)	101.0	100.4	99.5	-0.9
医業収支比率(%)	96.9	96.4	94.4	-2.0
(取扱入院患者数)病床利用率(%)	86.9	93.0	88.7	-4.3
職員給与費対医業収益比率(%)	50.8	53.1	51.3	-1.8
材料費対医業収益比率(%)	27.9	26.3	29.5	3.2

(注)各比率は、奈良市病院事業会計と指定管理者における市立奈良病院の公益法人会計を合算したものである。

項目	具体的な取組内容 (計画)	実施状況の点検結果	【評価】 A:順調 B:やや遅れ C:遅れ D:見直し	
			H28	評価所見
経費削減・ 抑制対策	新人事制度を導入し、人件費自然増(昇給幅)の抑制を図る。	平成28年度に、これまでの年功序列型給与体系から役職登用者の評価を行う等職階制給与体系へ変更した。 平成28年度は新制度の導入年度であり、旧制度では10月昇給であったものを、4月から平成27年度ベース+昇給を保障して支給しているため、実際の効果は平成29年度以降になる。 職員給与費対医業収益比率 平成26年度53.0% 平成27年度50.8% 平成28年度51.3%	A	概ね順調に推移していると考ええる。 医業収益の減と職員数の増が影響していると考えられるが、平成28年度目標値53.1%を下回っている。
	医療材料等の共同購入の推進	薬剤等の購入において、協会本部が価格交渉し、協会本部で共同購入した。	A	概ね順調に推移していると考ええる。
	委託業務の共同契約の推進	・保守契約(大型放射線機器等) 平成28年度途中で協会共同契約を実施 ・電気受容契約 平成28年7月から契約変更(従来から3%値引き)	A	概ね順調に推移していると考ええる。
収入増加・ 確保対策	ERセンターを設置し、救急診療不能率を減少させることで患者数の確保を図ります。	ERセンターを設置： 平成29年4月1日 救急診療不能率： 平成26年度6.8% 平成27年度7.7% 平成28年度9.7%	—	次年度以降の評価対象 救急診療不能率が増加している要因は、特に平成29年1～3月、後方受入施設において満床状態が多々発生し、その結果、退院調整が困難となり、市立奈良病院においても多くの期間で満床状態が発生したことにより、受入困難な状態が発生したことが大きな要因と考える。
	平成29年4月： 脳リハ(廃用リハ含む)件数と摂食機能療法について、言語聴覚士1名を増員することで、算定上限単位の拡大と収益増を図ります。	脳血管・廃用症候群・神経心理検査・摂食機能療法に係る月の平均単位 H26年度 1486.3単位 H27年度 1531.9単位 H28年度 1520.0単位 言語聴覚士数： 平成26年度4人 平成27年度4人 平成28年度4人 ※いずれも正規職員数	—	次年度以降の評価対象

項目	具体的な取組内容 (計画)	実施状況の点検結果	【評価】 A:順調 B:やや遅れ C:遅れ D:見直し	
			H28	評価所見
	平成29年4月: IVRの高度な技術的 進歩を支援する IVR-CT装置(血管 造影システム)の導 入により、検査時間 の短縮と、従来では 難しかった複雑で微 細な血管病変への検 査及び治療へのアプ ローチが可能となっ た。それにより対象 となる血管系疾患患 者の増加を図りま す。		—	次年度以降の評価対象 現在の新改革プランの 文言を修正する必要が あると考える。
	平成30年3月: 最新型の放射線治療 装置の導入により、 多様ながん症例に対 して、より高精度で 緻密な放射線治療方 法の選択が可能とな った。今後、治癒率 の向上と医師確保対 策を推進し、がん治 療患者の増加を図り ます。		—	次年度以降の評価対象 現在の新改革プランの 文言を修正する必要が あると考える。
その他	時期未定 専門的ながん治療を 推進していくため、 各部位に応じた「〇 〇がんセンター」を 設置し、地域のがん 治療の中心的役割を 担っていきます。	「頭頸部・甲状腺がんセンター」 を設置(「甲状腺外科センター」 からの名称変更): 平成29年12月1日	—	次年度以降の評価対象
住民の理解 のための取 組	市民公開講座を開催 する。	実施回数4回 実施日及び内容 5月28日(土) 77名参加 ここまで見える内視鏡検査、 ここまでできる内視鏡治療 9月15日(木) 34名参加 脳卒中の最新治療について 3月11日(土) 20名参加 今日から使える子どもの救急 3月23日(木) 12名参加 もしも、がんと言われたら。 「緩和ケア」って?	A	概ね順調に推移してい ると考える。

(別紙)本プラン対象期間中の各年度の収支計画等

団体名 (病院名)	奈良市(市立奈良病院)
--------------	-------------

1. 収支計画 (収益的収支)

(単位:百万円、%)

区分	年度		25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度 (目標値)	28年度(実績)	28年度 実績-目標値	29年度	30年度	31年度	32年度
	収入	1. 医業収益 a	8,772	9,630	10,105	10,486	10,077	▲ 409	10,601	10,601	10,622	10,601
	(1) 料 金 収 入	8,704	9,601	10,064	10,449	10,040	▲ 409	10,564	10,564	10,585	10,564	
	(2) そ の 他	68	29	41	37	37	0	37	37	37	37	
	うち他会計負担金	68	29	41	37	37	0	37	37	37	37	
	2. 医業外収益	678	764	776	824	809	▲ 15	824	888	948	955	
	(1) 他会計負担金・補助金	349	420	375	426	414	▲ 12	426	426	426	426	
	(2) 国(県)補助金	123	139	134	137	158	21	137	137	137	137	
	(3) 長期前受金戻入	0	24	67	77	69	▲ 8	79	143	203	210	
	(4) そ の 他	206	181	200	184	168	▲ 16	182	182	182	182	
	経常収益(A)	9,450	10,394	10,881	11,310	10,886	▲ 424	11,425	11,489	11,570	11,556	
支出	1. 医業費用 b	8,978	10,015	10,432	10,880	10,677	▲ 203	10,898	10,935	11,003	10,985	
	(1) 職員給与と費 c	4,633	5,107	5,133	5,569	5,168	▲ 401	5,625	5,626	5,637	5,626	
	(2) 材 料 費	2,290	2,592	2,816	2,756	2,971	215	2,786	2,786	2,791	2,786	
	(3) 経 費	455	519	431	455	439	▲ 16	491	490	491	490	
	(4) 減価償却費	763	749	935	936	938	2	852	819	818	928	
	(5) そ の 他	837	1,048	1,117	1,164	1,161	▲ 3	1,144	1,214	1,266	1,155	
	2. 医業外費用	143	262	342	385	268	▲ 117	384	384	383	383	
	(1) 支払利息	84	81	69	60	63	3	59	59	58	58	
	(2) そ の 他	59	181	273	325	205	▲ 120	325	325	325	325	
	経常費用(B)	9,121	10,277	10,774	11,265	10,945	▲ 320	11,282	11,319	11,386	11,368	
	経常損益(A)-(B)(C)	329	116	107	45	▲ 59	▲ 104	143	170	184	188	
特別損益	1. 特別利益(D)	49	0	41	0	26	26	0	0	14	14	
	2. 特別損失(E)	203	372	65	0	2	2	0	0	0	0	
	特別損益(D)-(E)(F)	▲ 154	▲ 372	▲ 24	0	24	24	0	0	14	14	
	純 損 益 (C)+(F)	175	▲ 256	83	45	▲ 35	▲ 80	143	170	198	202	
不良債務	累積欠損金(G)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	流動資産(ア)	1,813	2,201	2,392	2,438	2,322	▲ 116	2,434	2,436	2,438	2,440	
	流動負債(イ)	1,649	1,741	1,813	1,860	1,900	40	1,920	1,990	1,990	1,991	
	うち一時借入金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	翌年度繰越財源(ウ)	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額(エ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	差引不良債務 [(イ)-(エ)]-(ア)-(ウ)(オ)	▲ 120	▲ 460	▲ 579	▲ 578	▲ 422	156	▲ 514	▲ 446	▲ 448	▲ 449	
	経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	103.6	101.1	101.0	100.4	99.5		101.3	101.5	101.6	101.7	
	不良債務比率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$	▲ 1.4	▲ 4.8	▲ 5.7	▲ 5.5	▲ 4.2		▲ 4.9	▲ 4.2	▲ 4.2	▲ 4.2	
	医業収支比率 $\frac{a}{b} \times 100$	97.7	96.2	96.9	96.4	94.4		97.3	96.9	96.5	96.5	
	職員給与対医業収益比率 $\frac{c}{a} \times 100$	52.8	53.0	50.8	53.1	51.3		53.1	53.1	53.1	53.1	
	地方財政法施行令第15条第1項 により算定した資金の不足額(H)	▲ 120	▲ 507	▲ 609	▲ 617	▲ 461		▲ 621	▲ 623	▲ 625	▲ 627	
	資金不足比率 $\frac{(H)}{a} \times 100$	▲ 1.4	▲ 5.3	▲ 6.0	▲ 5.9	▲ 4.6		▲ 5.9	▲ 5.9	▲ 5.9	▲ 5.9	
	病床利用率	71.1	78.3	79.3	89.7	80.7		90.6	90.6	90.6	90.6	

(注)計画は、奈良市病院事業会計と指定管理者における市立奈良病院の公益法人会計を合算したものである。

団体名 (病院名)	奈良市(市立奈良病院)
--------------	-------------

2. 収支計画(資本的収支)

(単位:百万円、%)

区分	年度		27年度(実績)	28年度 (目標値)	28年度(実績)	28年度 実績-目標値	29年度	30年度	31年度	32年度
	25年度(実績)	26年度(実績)								
収	1. 企業債	2,121	857	0	0	0	0	0	0	0
	2. 他会計出資金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3. 他会計負担金	25	26	26	6	6	0	12	30	46
	4. 他会計借入金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5. 他会計補助金	0	1	2	2	2	0	2	2	2
	6. 国(県)補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7. その他		16	18	15	15	0	26	77	131
収入計(a)	2,146	900	46	23	23	0	40	109	179	179
入	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額(b)	44	0	0	0	0	0	0	0	0
	前年度許可債で当年度借入分(c)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	純計(a)-(b)+(c)(A)	2,102	900	46	23	23	0	40	109	179
	1. 建設改良費	3,829	903	2	2	2	0	2	2	2
支	2. 企業債償還金	38	42	44	21	21	0	38	107	177
	3. 他会計長期借入金返還金	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	
	支出計(B)	3,867	945	46	23	23	0	40	109	179
差引不足額(B)-(A)(C)	1,765	45	0	0	0	0	0	0	0	
補てん財源	1. 損益勘定留保資金	13	1	0	0	0	0	0	0	
	2. 利益剰余金処分量	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3. 繰越工事資金	1,752	44	0	0	0	0	0	0	
	4. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	
計(D)	1,765	45	0	0	0	0	0	0	0	
補てん財源不足額(C)-(D)(E)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額(F)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
実質財源不足額(E)-(F)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(注)計画は、奈良市病院事業会計と指定管理者における市立奈良病院の公益法人会計を合算したものである。

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:百万円)

	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度 (目標値)	28年度(実績)	28年度 実績-目標値	29年度	30年度	31年度	32年度
収益的収支	(460)	(442)	(60)	(104)	(100)	-4	(104)	(104)	(104)	(104)
	466	449	416	463	451	▲ 12	463	463	463	463
資本的収支	(6)	(27)	(5)	(2)	(2)	(0)	(2)	(2)	(2)	(2)
	25	27	28	8	8	0	14	32	48	48
合計	(466)	(469)	(65)	(106)	(102)	-4	(106)	(106)	(106)	(106)
	491	476	444	471	459	▲ 12	477	495	511	511

(注)

- ()内はうち基準外繰入金額を記入。
- 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰入金について」(総務副大臣通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいう。